基本理念
Philosophy

時間をつなぎ、
価値を循環させる。

文化は、一世代で完結するものではありません。先人の知恵と技が今日の創造を支え、その成果が未来へ受け継がれることで発展します。本財団は、その「循環」そのものを支えることを原点とします。

設立の背景
Background

受け継がれてきた、
世界に誇る文化資産

日本には、長い歴史の中で育まれてきた文化資産があります。芸術家が生涯をかけた作品、研究者が積み重ねた知見、作り手が身体を通じて受け継いできた技、地域が語り継いだ記憶——そのすべてが、時間をかけて育まれた貴重な社会的資産です。

工芸　芸術　学術研究　地域文化　伝統技術

受け継がれてきた美意識と技は、現代の多様な領域と出会い、新たな文化的価値を生み出しています。

現代アート・ファッション・デザイン・
アニメーション・ゲーム・先端テクノロジー
——など

一方で、受け継がれてきたものと、いま生まれつつあるものとの間には、時間の隔たり、世代による価値観の違い、社会環境の変化などがあります。この「あいだ」を丁寧に繋ぐ営みが、いま求められていると考えています。

設立概要
Overview

名称
一般財団法人 未来文化創造財団

基本理念
時間をつなぎ、価値を循環させる。

目的
文化を未来へ循環する「社会的資本」として捉え、
持続的な継承と発展に寄与する

主たる拠点
京都

設立日
令和8年8月8日（2026年8月8日）

設立者
堀内貞良

財団の体制
Members

代表理事	堀内貞良
理事	小森隆司　本田恵理子
評議員	和田洋一　西村勇哉　占部 まり　堀内照弘
監事	上條由紀子

Contact

一般財団法人 未来文化創造財団
京都府京都市上京区春日町426-2
Mail_info@ffcf.jp　Web_https://ffcf.jp

一般財団法人
未来文化創造財団

Foundation for Cultural Futures

時間をつなぎ、
価値を循環させる。

令和8年（2026年）設立
京都・タイム堂ギャラリー

課題認識
Our Awareness

個々の営みを、
一つの循環へ

作品を発表する場があり、研究を支援する制度があり、文化財を保存する機関もあります。それぞれの現場での尽力が、今日の文化的土壌を確かに支えています。

研究支援	発表の場	保存機関
研究を支える	作品を発表する	文化財を守る

それぞれの営みをつなぐことで、価値はさらに大きく育ちます。

本財団は、それぞれの営みの「あいだ」をつなぎ、未来の創造へ橋渡しする役割を担います。

財団の目的
Purpose

文化を、未来へ循環する
「社会的資本」へ

これまで大切にされてきた役割
受け継いだ文化を守る

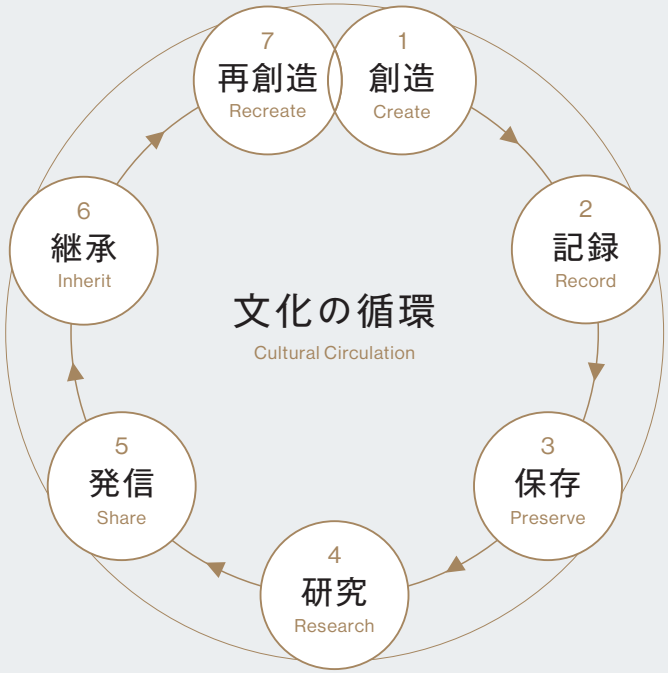
＋

本財団が加える視点
守られた価値を次の創造へつなぐ

文化を支援し、保存する取り組みに加えて、そこから生まれた価値を次の創造へとつなぐ——その循環そのものを支える「社会インフラ」を築きます。

文化循環モデル
The Model

創造された価値を、
未来の創造へ



創造から始まり、記録し、保存し、研究し、発信し、継承する。
そして継承されたものが、次の再創造を生みます。
この歩みは一方通行ではなく、めぐり続ける輪を描いています。
どの段階も、次の段階へとつながることで力を発揮します。
本財団は、この七つの段階に寄り添い、循環をゆっくりと回し続けます。

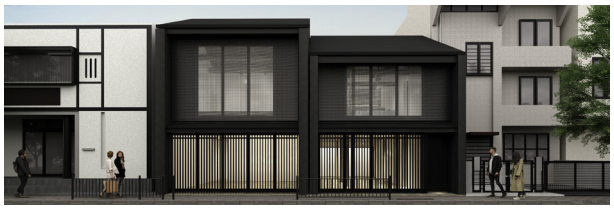
事業内容
Programs

循環を支える、五つの事業

1. **文化創造支援事業**〔創造〕
   新たな価値を生む創造活動・研究を支援します。
2. **文化資産アーカイブ事業**〔記録・保存〕
   作品・研究・技術・記憶を記録し、活用できる形に。
3. **学術研究支援事業**〔研究〕
   研究と創造の現場をつなぎ、成果を社会へ還元。
4. **教育・普及事業**〔発信〕
   展覧会や対話の場で、次世代の担い手を育てます。
5. **地域文化継承事業**〔継承〕
   地域の文化・技術・記憶の継承を地域とともに。

実践拠点
TimeDo Commons

タイム堂ギャラリー



境界の都にひらかれた、時間と世界のコモンズ。

大正期に建てられた町家2棟——戦前から続く時計店「タイム堂」と、喫茶「アスカ」だった建物——を結び、一つのギャラリーへと再生。
タイム堂は、単なるギャラリーを超えた、作家・工芸家・研究者・市民が出会い、つくり、考え、語り、その成果を社会へひらく最初の実践拠点へと進化していきます。